

はじめ文庫の本棚から

『江戸の小さな神々』 宮田登著 青土社 1989

先日江古田へ行った時、前よく行ってた居酒屋食堂おしどりが閉店していました。この店に初めて行った時、入り口の戸を押しても引いても動かなくて、後ろから来た客が取っ手に手を当て、軽がるスイーツと横に引きあげたので、運よく入ることができました。西荻窪の戎（えびす）、根岸の鍵屋、日暮里の川村など、その町に行くと足を向けてしまう店がいくつもあります。共通点は神様がいて感じといますか、気分よく飲んで話に花が咲いて福々とした時間を過ごせます。呑兵衛なだけか！

この『江戸の小さな神々』は、その土地や家や子どもを守っているお稲荷さんやお地蔵さんの話です。今でも私たちのまわりには多くの小さな神々があります。古い家の敷地の中や道端だけでなく、都心の立ち並ぶビルの谷間にも、大きな道路の脇にも、新しく建った住宅街の道にも、赤い鳥居や石のキツネや地蔵やらが不意に現れたりします。これだけ工事ばかりして風景が変わっていく東京でも、いつからそこにあるのか廃れずにひっそりと透明な空気感を漂わせています。きれいに清掃されて祭られているのです。そうやって祭ることはその土地が守られていることを感じさせます。なぜそこにその稲荷があるのか地蔵がいるのか、必ず言われがあります。暮らしの中で、伝染病や災難など悲しい辛いことが起きたあとに、人々の願いや感情が込められて建てられ、ですからこれらは権力の命令で造られたものではなく、人々の生活の中で精神の営みとして造られたのです。

しかし神々をないがしろにするとタタリが起きます。妖怪も現れてきます。七不思議も出現してきます。夏の夜にはそんな怖〜い話をして涼しくなるとはいかがでしょう。また福の神とか自由自在に神さまを作って、楽しくお参りするという発想も日本の民俗信仰にはあるようです。頭が痛くなれば頭痛の神様をこしらえ、受かりますように勝ちますようにという神さまをこしらえ、なんとか豊かに楽しく暮らしていこうという楽天的な風潮が日本にはあるようです。

夏真っ盛り、コロナと熱中症他にも用心してお過ごしください。

(#第31回) 2021年8月1日



撮影：田崎はじめ (2016年8月頃)

はじめ文庫ってどんなところ？

田崎はじめが残した本や資料を、住まいの一室を図書室にして開放しています。写真、都市、風景、東京、デザイン、芸能、絵本、コミック…と、ジャンルは心のまにまに広がっています。ここでひとりひとりが、良い時間を過ごせますように。

- ▶場所：西武池袋線保谷駅より徒歩約15分
- ▶開室日時：毎月第3土曜日、日曜日 12:00~18:00
- ※開室日は変更の場合あり。
- ▶HB会費：1回200円 1ドリンク付き

自宅の一室を解放している為、予約制とさせていただきます。ご予約ははじめ文庫WEBサイトの予約フォームよりお願いします。予約確認後、こちらから住所のご案内を致しますのでご確認の上ご来室下さい。



「両さんと歩く下町

— 『こち亀』の扉絵で綴る東京情景—

秋本治著 集英社新書 2004

太い眉毛がつながって、倒れた3の字で、元気に笑っている両さんという、面白いおまわりさんが主人公の、『こちら葛飾区亀有公園前派出所』は、1976年から週刊少年ジャンプで連載が始まり、ついこないだの2016年まで、40年続いたそうで、そうなる私なども20代の若い時から、この辺まで、両さんはいつも隣にいたようなものです。

この本では、『こち亀』の作者、秋本治が、漫画の舞台になっている東京の下町一亀有、千住、浅草、上野、神田を案内してくれます。もともと亀有の生まれ、昭和30年代は小学生だったというので、地元詳しいのは当たり前ですが、風呂屋で湯につかりながら話しているようなホッと感があり、懐かしの昭和を抱え持って、語ってくれます。

東京は、明治の時代からずっと、今でもどんどん変わり続けています。跡形なく壊し去って、新しく立ち現れてくる風景。それでもまだ、あちこちに変わらず残ってるものもあります。変わらずあることは、安心の土台を強くします。そんなモノやコトを大事にしたいと思います。

(#第2回) 2020年10月8日



田崎はじめとは？

1950~2017

デザインの仕事をしながら平面作品や写真作品を制作。1997年より練馬区石神井に居住。ほぼ毎日石神井公園周辺をうろうろしながら風景や三宝寺池の写真の撮りまくっていたオジサンです。お店とかお酒とか器とか音楽とかが大好きで、この地域で活動する人と仲良くなって、フリーペーパー「井」を作ったり「井のいち」や「森のJAZZ祭」をやってみたりしていました。



●はじめ文庫通信について●

はじめ文庫通信は、はじめの妻K子がFacebookにあげている「読書記録」を、札幌在住の娘が勝手に編集している新聞です。気が向いた時に発行します。



Y.S.の こち亀の好きな回

「失われた写真を求めて!?の巻」コミックス100巻収録
部長が京都旅行へ行った際のフィルムを両津が現像に失敗したため、部長ソックリの人形と中川の映画会社を使って写真を撮り直す回。
自分が旅行に行って写真を撮る際、どんなポーズをしていいかわからない時は部長ソックリの人形を思い出して何ともない固い表情をするようにしています。

「コンビニゲームバトル!!の巻」コミックス101巻収録
派出所のみんなでコンビニ経営のシミュレーションゲームをする回。
ゲーム内で大金持ちになった両津が部長のコンビニの回りを堀にする展開があります。
無茶をする両津とそれが出来るゲーム設定に、わずかーコマですが子供の頃の自分は涙を流して笑ってました。

うまいもん録



MDH Chicken curry masala
次はどこのカレー粉を買おうかな?と、色々なカレー粉を試しているが、こちらは唐辛子を入れなくても結構辛めで、スパイスの旨みもありおいしかった。肉とヨーグルトとトマト缶があれば出来る。